

「おしごとチャレンジ」への取り組み

辰野中学校 清都しのぶ

1 はじめに

本校では、キャリア教育の学習において、数多くの辰野町の大人の生き方や考え方を学びながら、「その学年なりの【仕事観】【人生観】を持つこと」を目標として取り組みを行っています。キャリア教育の中心的活動ともいえる職場体験学習においても、「14歳なりの仕事観」を持つという目標で学習を進め、2年の終わりにはプレゼンテーション発表会を行い、一人ひとりが仕事観を語ります。

生徒たちが最初に仕事について考えるきっかけとなるのは、1学年で行われる「おしごとチャレンジ」です。これは一昨年度から始まった取り組みで、職場体験を前に、辰野町の事業所が一同に集まり、生徒の「仕事に対する疑問」に答えるものです。その「辰中おしごとチャレンジ」の取り組みについて、ご紹介します。

2 「おしごとチャレンジ」とは

① 「おしごとチャレンジ」を始めるきっかけ

「どうして仕事をしなくてはいけないの?」「毎日同じことをして飽きないの?」

「仕事って大変なんでしょう?いやだな。いやになっても続けられるの?」

「数多くある仕事から、どうやってその仕事を選んだの?」

「最初から希望通りの仕事に就けたの?」「お給料ってどう決まるの?」

「仕事って何?」と聞いたときの生徒たちの素直な疑問です。

職場体験においても「楽しみだ」という生徒は一握りで、「心配だ」「面倒くさい」「学校行事だからしょうがない」「できるだけ楽しくおいしく楽しい場所で体験をしたい」というのが生徒たちの素直な感想でした。

職場体験が単なる「お仕事の体験」ではなく、「仕事とは何なのか」「仕事とは人生の中でどんな役割を持つのか」ということをつかみ、そのために今の自分ができることは何か、ということを考える機会にしてほしいと考えて行われたのが「おしごとチャレンジ」です。

上記にあるような仕事の疑問を直接大人たちにぶつけ、仕事について考える機会とするために「おしごとチャレンジ」を立ち上げることにしました。

② 「おしごとチャレンジ」の概要

参加いただく事業所の数のブースを作り、始めに基調講演をお聞きした後、生徒は事前に決めたブースを回りながら仕事に対する考え方や思いについて対話する。15分ずつ3ブースを回り、最後に学んだことの共有の時間を取る。

③ 職場体験実行委員会の立ち上げ

○中学生実行委員

「おしごとチャレンジ」という名前、「働くって何?～143人全員が職場体験に向けて意志を持つ～」というテーマ、講師の紹介カードの内容、当日の司会進行、招待状お礼状・・・すべて各クラスより希望者を募った職場体験実行委員が考え、実行していきました。

各クラスの実行委員長4名は町の大人たちとの打ち合わせを行い、新聞社へのPRなども進めました。そのことで「自分たちが考え進めた会によって、自分たちの仕事観を考えるんだ」という姿勢が生まれたように思います。

(生徒感想) 職場体験実行委員になったときは、正直面倒くさいという気持ちもあったけど、やってみて良かったと心から思った。講師の方の名前を全部覚えて、どんな仕事をしている方が知ったり、みんながどんな質問や疑問を持つか考えたり、当日の動きや流れを考えたりするのは一つ一つ楽しかったし勉強になった。職場体験まで頑張って取り組もうと思った。

○町の実行委員

実行委員として名乗りを上げてくださったのは、信州フューチャーセンター(以下FC)の方々です。FCは住民・行政・起業をつなげて町おこしのアクションを起こす起点として立ち上げられました。その代表である宮原陽子さん、伊藤優さんに相談し、教育委員会・商工会・辰野町役場産業振興課をつないでいただきました。

町の実行委員と中学生の実行委員が話し合いをして、概要を決めていきました。

④ 当日の様子・生徒の感想(平成30年度より)

- ・参加事業所 34所 参加人数 50名 参観者 20数名
- ・生徒数 143名 教員 10名

○基調講演 「馬淵商店」馬淵泰太郎様 「働くとは」(15分)

(生徒感想)

始まる前からとてもワクワクした。始めの馬淵さんのお話はたった15分だったけど、すごくいきいきとしたお話で、もっともっと聞きたかった。仕事の本音、やりがいなど、たくさん話を聞くことが出来た。人生を楽しむってこういうことかな、と思った。



○ブースでの話し合い（15分×3回）

最初の5分で講師の方は仕事観について語る。その後生徒との質疑応答・話し合いを行う。

（生徒感想）

- ・まず講師の方の数にびっくりした。大人としての礼儀みたいなものが見られて、仕事の話を知ったら、私の将来の夢が動き出すのを感じた。この仕事は知っている、と思った仕事でも、話を聞いてみたら少し違ったりして、やっぱり直接話を聞くのは大切だと思った。
- ・体育館に入ると思っていたよりも多くの方が来ていて、ポスターや旗があつたりして講師の方の気合を感じました。三つの事業所の話はどれも面白く、将来の役に立ちそうな言葉もたくさんいただきました。三つ聞いただけでも、「辰野町でいろんなことをやっている方がいるんだな」ということを感じました。仕事に対する見方も少し変わったし、貴重な経験をさせていただきました。
- ・僕は正直、「大人」というものに抵抗を感じています。もちろんよい大人もいます。でも、政治で言い訳を試みたり、自分の判断の善し悪しが付かない大人もたくさんいます。（中略）でも今日来てくれた大人の方の話を知って、仕事に向き合うってこういうことだということがわかりました。自分の仕事に対する誇りであったり、尊敬であったり、そういうものが講師の方の話や表情から伝わりました。そして自分の仕事を楽しんでいるのもわかりました。あの大人達の中に僕が想像していた「大人」はいませんでした。僕は今日の体験で、お金の何倍以上に価値のあることを教えていただきました。忘れることができない体験です。講師の方に感謝しています。



○感想の共有「今日から自分ができること」

3人～5人でグループを作り、大人も交えて今日の学びを語り合い、「今日からできる第一歩」を発表した。

（講師感想より）

- ・多くの生徒が自ら発言し、自分のこれから取り組みたいことを明るく発表する姿に感動した。
- ・キラキラした目で話を聞いてくれたり質問をしてくれたりして嬉しかった。
- ・美容師という仕事に興味があってもなくても、生徒の皆さんがきちんと話を聞く姿勢でいたのが感激した。発言も活発でしっかりしている印象だった。日々働く中で、嬉しいときや落ち込むときもあるが、お客様と接するときは気持ちを込めて仕事をさせていただくことが大切であることを伝えた。
- ・多くの生徒が前向きに発言してくれたが、学習に対して今ひとつ意図を感じていない生徒もいて、個人差があると感じた。

⑤ 職場体験にむけて、その後の学習活動について

「おしごとチャレンジ」経て、生徒たちは「今の仕事観・まだ疑問に残っていること・自分の長所や短所」を記した自己紹介カードを作成し、職場体験でお世話になる事業所にそれぞれ持って行った。また、以下の学習や講座を行った。

- ・マナー講座（ジョブカフェ講師による）
- ・職業適性検査
- ・趣味と仕事の両立講座（大道芸を趣味とし、仕事をしている方々との交流）

⑥ 職場体験を終えた後の活動について

職場体験で、各事業所で「仕事について」というテーマで語り合うことをお願いし、帰ってきた生徒たちは今現在の「仕事観」を学習カードにまとめた。

年度末のプレゼンテーションに向け、辰野高校の商業科の先生にパワーポイントの講座を開いてもらい、全員がパワーポイントを用いて発表準備を行った。三学期にプレゼンテーション発表会を行う予定である。

3 今後の課題と目標

今年度より、この「おしごとチャレンジ」は、辰野町の産業振興課が主催し、信州 FC を運営する「TUG BOUT」が町より委託を受けて運営をする、という形で行うことに決まりました。併せて、今まで辰野中学校で行っていた活動ですが、辰野高校、豊南短期大学とも一緒に活動を行い、実行委員も三校から集まって話し合いを続けています。

この学習を一校の一教員が運営していくと、その教員が異動した際に活動が立ち消えになったり、先細りしたりする心配がありましたが、この運営方式に変わったことで、継続可能な学習になったと感じています。また、高校生や大学生の仕事に対する視点も聞かせてもらえる機会となり、すでに実行委員の生徒たちは「高校生や短大生は、仕事への思いがとても熱い！」と語っています。

この「おしごとチャレンジ」を通して、町では事業所の振興、町で働く人材確保、町の活性化を目標としています。産官学が一緒に伸びていく学習、生徒が主体性を持って「仕事観」を深めていける学習を今後も模索していければと思っています。

中学生が主体となり 地元の企業と仕事について考えた前回の事例です



働 く つ て 何 ？

辰中お仕事チャレンジ



お仕事チャレンジをやるうと 思ったきっかけは？

中学1年生には働くということに対して素朴な疑問がありました。大人が「働く」理由は何だろう？毎日その仕事をしていて飽きないのか？働く中で感じる「いきがい」は何だろう？仕事で失敗したときはどうするの？などなど。そこで2年生になったときに行われる職場体験の前に、1年生143人全員が自分の意思を持って行動できるように地元企業のの方に直接お話を聞こうと企画したのが「辰中おしごとチャレンジ」です。1年生の生徒16人が実行委員となり辰野町の産業振興課や商工会、地元企業の協力を受け、町内700社に参加募集チラシを配布して準備を進めました。当日は子供たちの問いかけに答えるため、町内34事業所から50名の方に参加いただきま

した。体育館に設けられた各事業所のブースを1回15分で3回まわり、自分の希望する職種の大人と熱心に言葉を交わし、疑問に思っていることや、心配なことなどを活発に質問していました。事業者の方も自分が中学生だったころを振り返りながら当時考えていたことなどを共有しながら大人がどんな気持ち(想い)で働いているのか熱い想いを中学生に話ってくれました。

お仕事チャレンジをやってみ て変わったことは？

「仕事はめんどくさいこと、つらいこと。」というイメージや不安を持っている子供たちが多かった気がします。それに対し大人からは「まだ働いた事が無いのだから、わからないことや不安に感じる人が多いのは当然。難しく考えずに、まずは自分を好きになって相手のためになることをしてみよう！人の役に立ち、喜んでお金を得られればお客さんも嬉しいし自分も嬉しい。労働は大変なことばかりでは無い、など沢山の話をしてもらいました。子供たちは真剣に耳を傾け、自分の考えをまとめていくことで漠然とした不安は徐々に解消され、「大人はお金のために嫌々働いているわけでは無く、自分のやりたいことや、得意なこと

で周りの人に喜んでもらって働いている。大変なことがあっても、喜んでくれるお客さんがいるから頑張れるんだ」という想いを受け取ったようです。大人の話聞いてみて、仕事はめんどくさいこと、つらいことでは無く人を喜ばせるために働くことと考えると、自分の好きなことや得意なことで喜んでもらえることは？自分の得意なことを活かせる職業は？と考えることができ、今すぐにこの仕事をしてみたいと思いつくことはできなくても、楽しく働いている自分の姿が想像できるようになった！今日の話を忘れずに職場体験に活かして頑張りたいとの声をもらうことが出来ました。



辰中おしごと チャレンジ!



仕事はめんどくさいとか、つらいというイメージが強かったんですが、いざ大人の話聞いてみると想像とは違ってすごいなあという感想に変わりました。すごいと思った部分は人のために働くとか、イヤなことでも率先してやっている事とかです。自分にとって仕事はお給料のためだったんですが、話を聞いてみて人が困っている時に、その人がうれしいと感じてくれることが出来たらいいなと思い、今より得意なことをもっとのびしていきたいと思いました。



辰野中学 1年4組



最初はお金のためとか自分のためだけに考えが大きかったんですが、今日の話を聞いて仕事に対する考えが変わってきて良かったです。将来的には人を助ける仕事してみたいと思いました。今後行われる職場体験では挨拶を大きな声でしながら、自分が興味を持った事業所で仕事を体験したいです。



辰野中学 1年2組



実行委員長として今後の職場体験に活かせるように、今回のテーマでもある「働くって何?」をどうやったらみんなに考えてもらえるか工夫しました。実際に今日、企業の皆さんに話を聞いてみて相手に対する気持ちや、仕事はもちろん人生で大切なことを学びました。特に最初の講演で馬淵さんがおっしゃっていた、「明るく、元気に、素直に生きること。誰かの役に立つことを一番大事にしてほしい。」という話が心に響きました。



辰野中学 1年2組

仕事は大変そうだし大人の世界の話だなあと思っていましたが、警察の仕事にとても興味を持つことができ、実際に使っている道具や話を聞いたのがとてもおもしろかったです。仕事って、多くの人が支え合ったり関わったりして進んでいるんですね。参加したことで大人になった自分が楽しく仕事をしているイメージが浮かびました。職場体験では一緒に行く人や、会社の人と協力し合い皆で支え合いたいと思います。



辰野中学 1年1組

この町の仕事 そして輝く大人に出逢う!



[赤坂ホンダ] 下平 雪子さん

今日のお仕事チャレンジではキラキラした目で話を聞いてくれたり、質問をしてくれたりして嬉しかったです。夢を持っていないことや進路など…不安なことは沢山ありますよね。でも、とにかく「今」を楽しむこと! 友達を大切にすること! それが将来に繋がっていることを知ってほしいです。苦手な事で何でも、嫌々でなく進んでやってみる。そうすれば必ず何かが見つかるはずですよ。



[レストラン陽] 関 倫夫さん

中学生の皆さんは、まだ働いたことが無いのですが自分の理解できる部分は興味を持って聞ける共感もできるようです。自分も中学の時には何をやりたいかなんて決まっていなかったし、決まっている人の方が少なかった。いずれは何をやりたいか決まってくるので焦らずに夢を大事に日々をすごしていってもらえれば良いんじゃないかと思いました。



[共和堂新聞店] 竹村 剛さん

仕事で大変なことは何か? 失敗をした時にどう立ち直るか? などの質問が多く、仕事=大変というイメージが強いんだなあと感じました。自社で言えば、早朝作業や、天候が悪い時の配達などは大変ですが、元旦などにお客様から頂く感謝の手紙やメモに励まされること、仕事はすべて誰かの役に立っていること、自分の興味のある事には積極的にチャレンジしたほうが楽しめるかと話をしました。



[はる美容室] 赤羽 奈津江さん

美容師という仕事に興味があってもなくても生徒の皆さんが、きちんと話を聞く姿勢でいたのが感激でした。発言も活発で、しっかりしている印象です。日々働く中で、嬉しい時や失敗して落ち込む日もあります。お客様と接する時は、気持ちをこめて仕事をさせて頂く事が大切だということを伝えました。自分の世界を広げ、想像を広げ、沢山の経験をして、素敵な大人になってほしいです。



[信州フューチャーセンター] 久保田 由果理さん

働くって大変そう。大人になったら仕方なく仕事をする。というマイナスイメージがあったようですが、人にやらされている時の「大変」と自らやりたいことをする「大変」は違うことを理解して、本当に自分のやりたいことをやりきってほしいです! どんな出来事もムダはなく自分の糧になるので、出来事から目をそむけずに自問自答して学びを経て、人間的にも心豊かな大人になってください。



[瀬戸ライスファーム] 瀬戸 真由美さん

農業に興味があると答えてくれた生徒さんが多くて驚きました! 自分のやりたい事が、社会人になるまでに見つかるか不安があるようですが、無理に探さなくても、自分が興味のある事、好きな事を積極的にやっていると、自然にやりたいことが分かってきて大変な仕事でもやり甲斐を感じるようになります。今は沢山の友達や人と出会い、繋がりを大切にして、沢山の経験をしてください。